

第27卷・第10号

昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和54年10月1日（毎月1回1日発行）

牧草園藝



粗飼料多給による肉牛肥育について

—ホールクロップサイレージ利用で肉牛肥育を—

近年、麦類の熟期の進んだものを子実と茎葉とともに利用し、作物全体をサイレージにする（いわゆるホールクロップサイレージ）の調製技術が確立し、普及されつつあります。

とうもろこしについてみても、以前は茎葉を主体とした水分の多いガサだけのものであったが、最近は子実の充実するまで待って収穫・調製するのが当然になっております。

穀類は熟期が進むにつれて糖分含量が多くなり水分は少なくなりますのでホールクロップサイレージはサイレージの中でも比較的作りやすく、変敗の少ない飼料であります。

ホールクロップサイレージはTDN含有率、乾物含有率が高く、乳牛、肉牛の飼料としてはより効果的で、とくに肉牛の育成、肥育用としては最適で、乳用雄子牛の肥育の場合）日当0.8kg前後の増体が期待出来ます。また、自給飼料ですので安価で牛肉の生産費を低減することが出来ます。

ホールクロップサイレージとして利用できる作物には麦類、とうもろこし、ソルゴーがあげられます、これらについて、要点を記すと

1) **麦類** 麦類としては大麦、小麦、ライムギエンバクなどがあげられます、暖地における冬作として大麦あるいはエンバク（西南暖地で品種としてハヤテ、9～12月、10～5月）のホールクロップサイレージがこれまでのイタリア



糊熟期近くのエンバク

ンライグラスとともに利用できます。でき上がった品質からみて消化率では糊熟期～黄熟期に、D C P 収量は糊熟期に、T D N 収量は糊熟期に最高となりますので収穫調製は糊熟期を目途におこなうことが好ましいようです。

2) **とうもろこし** 品種別に登熟にともなう乾物含量、T D N 収量などの変化をみると、繊維成分の消化率は低下するが、デンプン含量が増加するために、むしろT D N 含量は増加する。このような利点を引き出すためにも、収穫時に熟期の進んでいるものが好ましく、黄熟期以降に収穫し調製します。完熟期の早生とうもろこしでは、水分70%以内、子実割合で47～49%あります。ホールクロップサイレージの調製にあたっては細切と踏圧することに留意して下さい。

3) **ソルゴー** ホールクロップサイレージ用としては今後検討される作物であると思われるが、とうもろこしと同じように黄熟期以降の収穫調製で、子実型または子実兼用型品種の利用がよいようです。



とうもろこしは子実の充実したものを